

遠隔入試 学生募集要項

新型コロナウイルス感染症拡大の状況を踏まえ、令和3年度音楽芸術研究科入学試験を安全かつ円滑に実施するため、遠隔入試を導入する。

（※遠隔入試は受験生が来校せず、郵送・メール・オンライン等を活用し、受験するものである。）

この要項に記述のない事項については、既刊の「令和3年度沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科（修士課程）学生募集要項」に準ずる。出願書類は、同募集要項に綴じ込んである用紙を使用すること。

Ⅲ 選抜方法

- (1) 入学者の選抜にあたっては、専門試験、基礎能力等の選抜試験及び成績証明書、履歴書等の各資料を総合して判定することとし、当初実施を予定していた語学試験を実施しない。
それに伴い、配点比についても変更となる（V-2参照）。
- (2) 舞台芸術専攻及び演奏芸術専攻の実技試験は録画媒体（DVD、USBメモリ、SDカードのいずれか）の提出により行う。
- (3) 受験生は各自インターネット環境を整えること。
- (4) 音楽学専攻の専門試験（口述試験）はオンラインにより実施する。

IV 試験日程及び試験実施方法

専攻／専修		～10月16日(金)	10月19日(月)～21日(水)	10月24日(土)	10月25日(日)
舞台芸術専攻	琉球古典音楽専修	実技試験 (録画物の提出)	基礎能力 (解答データの送付)		
	琉球舞踊組踊専修				
演奏芸術専攻	声乐専修	実技試験 (録画物の提出)	基礎能力1・2 (解答データの送付)		基礎能力1 (オンライン) 9:00～
	ピアノ専修				
	管弦打楽専修				
音楽学専攻	音楽学専修		基礎能力 (解答データの送付)	口述試験 (オンライン) 10:30～	
	作曲専修				

上記の試験時間は予定であり、志願者数によっては変更することもある。

1 メールアドレスの確認を行います。

全ての受験生は既刊の学生募集要項入学願書の現住所欄の空白部分にメールアドレスを記入すること。

2 舞台芸術専攻及び演奏芸術専攻の専門試験「実技試験」は録画媒体（DVD、USBメモリ、SDカードのいずれか）の提出により実施します。

実技演奏の録画媒体（DVD、USBメモリ、SDカードのいずれか）を、本学事務局宛に氏名、住所、連絡先（電話番号）を明記の上、「令和3年度音楽芸術研究科入学試験実技録画物在中」と明記して郵送すること。10月16日（金）の消印有効とする。

(1) 実技試験の方法について

以下に指定する方法で課題の演奏録画を提出すること。なお、**演奏環境、画質等は評価に影響しない。**

注意事項は各専修の「試験曲等」欄の記載に従うこと。

(2) 録画方法、提出方法

ア 記録メディアは、以下の媒体のいずれかとする。

DVD、USBメモリ、SDカード(含 microSD カード)

- イ SD・USBメモリのフォーマット形式は以下のいずれかとする。
NTFS FAT32 exFAT
- ウ 動画ファイル形式は、以下の形式とする。
MOV MP4 AVI WMV MPG
- エ DVDの場合は、ファイナライズ処理を必ず行い、他の機器で再生可能かどうかを確認すること。
- オ 録画の初めに受験票を顔と一緒に映すこと。名前等は言わないこと。
- カ ファイル名に「受験する専修名と氏名」を記載すること。
- キ 記録メディア本体もしくはケースに、「受験する専修名と氏名」を記載すること。また、必ずコピーを手元にとっておくこと。
- ク 提出された記録メディアは返却しない。
郵送中に破損しないように梱包すること。

3 演奏芸術専攻の基礎能力試験の「和声」及び音楽学専攻の専門試験「口述試験」をオンライン面接にて実施します。

演奏芸術専攻及び音楽学専攻の受験生は各自、オンライン面接が可能なインターネット環境を整えて下さい。また、以下の点に留意して準備をお願いします。

- (1) 受験の際に同室に他の人が入らないようにして下さい。
- (2) 事前にシステムのチェック日を設けます。詳細は受験票送付時に連絡します。

4 基礎能力試験のうち、「琉球芸能史」、「和声」、「西洋音楽史」及び「音楽・芸能の歴史と理論」は事前に入試問題を公開しますので、以下のとおり解答を提出してください。

- (1) 令和2年10月19日(月)午前9時に受験者に通知します。受験票と共に送付するURLとパスワードを使用して閲覧すること。
- (2) 解答は出願後に本学から受験票と共に送付する解答用紙へ鉛筆で筆記し、携帯電話等で写真撮影の上、令和2年10月21日(水)17時までに受験票送付時に告知するアドレスに送付すること。
- (3) 「和声」については、出願後に本学から受験票と共に解答用五線紙を送付します。

V 試験科目、配点と試験曲等

V-1 試験科目

専攻／専修		専門試験	基礎能力
舞台芸術専攻	琉球古典音楽専修	実技試験 (録画物の提出)	琉球芸能史 (解答データの送付)
	琉球舞踊組踊専修		
演奏芸術専攻	声楽専修		1 和声 (解答データの送付及び オンライン口述試験)
	ピアノ専修		
	管弦打楽専修		
音楽学専攻	音楽学専修		口述試験 (オンライン)
	作曲専修	口述試験 (オンライン)	西洋音楽史 (解答データの送付)

*1 西洋音楽・日本音楽・民族音楽・民族芸能の4領域から選択して解答する。

V-2 配点と試験曲

専攻	専修	総点	配点比	
			専門試験	基礎能力
舞台芸術	琉球古典音楽	100	80	20
	琉球舞踊組踊	100		
演奏芸術	声楽	100		
	ピアノ	100		
	管弦打楽	100		
音楽学	音楽学	100		
	作曲	100	80	20

舞台芸術専攻

琉球古典音楽専修

試 験 曲 等

歌三線、琉球箏曲のいずれかを選択し、それぞれ指定された科目を受験する。
録画の曲順は番号の順とする。

【歌三線】

1. 昔節「作田節」「ちゃんな節」「しょどん節」より1曲を選曲
2. 二揚独唱曲「散山節」「仲風節」「述懐節」より1曲を選曲
3. 地謡「総掛」「花風」より1題を選択

【琉球箏曲】

1. 「江戸菅攪・拍子菅攪・佐武也菅攪(三段～五段)」「六段菅攪」「七段菅攪」より1題を選曲
2. 昔節「ちゃんな節」「首里節」より1曲を選曲
3. 地謡「総掛」「花風」より1題を選択

【録画撮影に関する特記事項】

- * 試験曲は暗譜で独唱し、全曲を通して録画すること。
- * 3の地謡は、演奏のみとする（立方は伴わない）。歌持ちの回数は2～3回とする。
- * 一切の編集は行わないこと。途中で録画が中断しないこと。
編集が確認された場合は、不正行為とみなすことがある。
- * カメラアングルについて
・ 録画は正座で演奏し、全身が映るように撮影すること。

琉球舞踊組踊専修

試 験 曲 等

琉球舞踊、組踊のいずれかを選択し、それぞれ指定された科目を受験する。
録画の曲順は番号の順とする。

【琉球舞踊】

1. 女踊「伊野波節」「諸屯」「作田」の3演目
2. 二才踊「ぜい」「前の浜」「高平良万才」より1演目を選択
3. 雑踊「むんじゅる」「花風」より1演目を選択

【組踊】

1. 組踊「執心鐘入」「二童敵討」「女物狂」(各役の唱え)の3演目とする。なお、試験の配役(唱えの台本)については、受験票と併せて送付する。
2. 女踊「伊野波節」「諸屯」より1演目を選択
3. 二才踊「前の浜」「高平良万才」より1演目を選択

【録画撮影に関する特記事項】

- * 試験曲は、1演目ごとに録画すること。
- * 地謡はCDまたは生演奏とする。(生演奏の場合、三線2名、太鼓1名とする)。
- * 稽古着(無地系の長着)を着用。必要な小道具を使用すること。

- *組踊の唱えは、送付された台本を見ながら、正座して唱える。（所作無し）
- *一切の編集は行わないこと。編集が確認された場合は、不正行為とみなすことがある。
- *カメラアングルについて、正面から出羽・中踊・入羽を含め、全身が画面に映るように撮影すること。

演奏芸術専攻

声楽専修

試 験 曲 等

- A. W. A. Mozart、J. Haydnの声楽曲 1曲（オペラ、宗教曲、歌曲のいずれかより1曲）
- B. アリア 2曲（ただし、うち1曲は宗教曲のアリアも可）
- C. 歌曲 1曲

- *曲目はそれぞれ異なる曲を計4曲とし、自由選択とする。
- *A・B・C 4曲の合計時間は10～15分とする（曲間を含む）。
- *同一作曲家の作品は1曲のみとする。
- *伊・独・仏・英の中から、2カ国語を含むこと。
- *歌唱は暗譜で行うこととし、伴奏者は受験生が用意すること。
- *実技試験の演奏順は、受験曲目提出用紙に記入した順とする。
- *前奏、間奏、後奏は省略することも可。ただし、カット箇所を記入の上、受験曲目の楽譜を出願時に提出すること。

【録画撮影に関する特記事項】

- *全曲を通して演奏し、録画すること。
- *一切の編集は行わないこと。途中で録画が中断しないこと。
編集が確認された場合は、不正行為とみなすことがある。
- *カメラアングルについて
 - ・顔が確認できるように上半身または全身が画面に映るように撮影すること。
 - ・暗譜での演奏のため、楽譜や譜面台がないことが確認できること。

【伴奏(者)について】

- *録画撮影の際、伴奏者の映り込みの是非は問わないが、映り込む場合は入試で使用する
ことについての許諾を得ておくこと。

ピアノ専修

試 験 曲 等

- A. J. Haydn、W. A. Mozart、L. v. Beethovenのソナタより1曲（全楽章）
- B. 上記で選択した作曲家以外の、任意のピアノ独奏用作品（複数曲でも可）

- *A、B両方の演奏合計時間が30分以上。

- * Bの作品は、出版されている作品に限る。内部奏法を指示した作品は除く。
- * A、Bの順に演奏すること。
- * 演奏は暗譜であること。
- * 繰り返しは自由とする。

【録画撮影に関する特記事項】

- * 課題曲の変更はなし。
- * 課題曲はA、Bの順に全曲を通して演奏し、録画すること。
- * 曲中、曲間の編集は行わないこと。編集が確認された場合は、不正行為とみなすことがある。
- * グランドピアノ、もしくはアップライトピアノでの演奏とすること（電子ピアノは不可）。
- * カメラアングルについて
 - ・ 録画は、必ず演奏者の手元、横顔、ペダル操作が映るように設定すること。
 - ・ 暗譜で演奏していることが確認できるように、譜面台も画像に入れること。
 - ・ カメラは固定位置に設定し、ズーム等は行わない。

管弦打楽専修

試 験 曲 等

- 以下により任意の1曲を選択し、全楽章を演奏すること。
 カデンツァがある曲については任意のカデンツァを含む。
 ピアノ伴奏つき。暗譜で演奏すること。
 伴奏者については受験生が用意すること。
 * 前奏、間奏、後奏等のピアノ伴奏部分のカットは任意とする。

【録画撮影に関する特記事項】

- * 全曲、全楽章を通して演奏し、録画すること。
- * 一切の編集は行わないこと。楽章間であっても途中で録画が中断しないこと。
 編集が確認された場合は、不正行為とみなすことがある。
- * カメラアングルについて
 - ・ ヴァイオリン、ヴィオラは、左手ならびに演奏時の右手が画面に映るように撮影すること。また、全身又は上半身(演奏中の左手、右腕を含む)が必ず映っていること。
 - ・ チェロ、コントラバスの録画撮影のアングルについては以下を参考にする。
 《高さ》カメラは肩の高さ、《場所》ほぼ中央
 必要とされる撮影箇所：《向かって左側》弓先での右手、《上》頭（コントラバスは楽器の頭）、《下》f字孔
 - ・ 管楽器は、全身もしくは上半身が必ず映っていること。

- ・打楽器は、上半身及び手元が必ず映っていること。
- ・楽譜や譜面台がないことが確認できること。

【伴奏(者)について】

- *録画撮影の際、伴奏者の映り込みの是非は問わないが、映り込む場合は入試で使用することについての許諾を得ておくこと。
- *原則として、伴奏による演奏(録画撮影)とするが、諸事情により用意ができない場合は無伴奏での演奏(録画撮影)も可とする。その場合、評価に影響はない。

<ヴァイオリン>

1. F. Mendelssohn : ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64
2. P. I. Tchaikovsky : ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品35
3. 上記1. 2. の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<ヴィオラ>

1. F. A. Hoffmeister : ヴィオラ協奏曲 ニ長調
2. C. P. Stamitz : ヴィオラ協奏曲 第1番 ニ長調
3. 上記1. 2. の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<チェロ>

1. A. Dvořak : チェロ協奏曲 ロ短調 作品104
2. E. Lalo : チェロ協奏曲 ニ短調
3. 上記1. 2. の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<コントラバス>

1. D. Dragonetti : コントラバス協奏曲 イ長調
2. S. Koussevitzky : コントラバス協奏曲 嬰へ短調 作品3
3. 上記1. 2. の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<フルート>

1. W. A. Mozart : フルード協奏曲 第2番 ニ長調 K. 314 (285d)
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<オーボエ>

1. W. A. Mozart : オーボエ協奏曲 ハ長調 K. 314 (285d)

2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<クラリネット>

1. W. A. Mozart : クラリネット協奏曲 イ長調 K. 622
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<ファゴット>

1. W. A. Mozart : ファゴット協奏曲 変ロ長調 K. 191 (186e)
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<サクソフーン>

1. J. Ibert : アルトサクソフーン室内小協奏曲
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<ホルン>

1. R. Strauss : ホルン協奏曲第1番 変ホ長調 作品11
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<トランペット>

1. J. Haydn : トランペット協奏曲 変ホ長調
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<トロンボーン>

1. F. David : トロンボーン協奏曲 変ロ長調
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<バストロンボーン>

1. V. Nelhybel : バストロンボーン協奏曲
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<チューバ>

1. R. Vaughan Williams : チューバ協奏曲
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<打楽器>

1. A. Jolivet : 打楽器協奏曲
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<マリンバ>

1. A. Koppel : マリンバ協奏曲第 1 番
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

音楽学専攻

音楽学専修

口述試験

研究計画書に関するオンラインによる口述試験

* 研究計画書の提出

本学所定の様式（綴じ込み用紙）に記入すること。

氏名を明記して提出すること。

口述試験の際に、提出した研究計画書の控えを手元に用意すること。また、場合により画面共有することがある。

作曲専修

口述試験

提出作品、作曲理論の学習歴および研究計画に関するオンラインによる口述試験

* 作曲作品の提出

楽譜 3 点以内とし、出願時に製本せず（順番通りにクリップ留め）表紙に曲の題名と氏名を明記して提出すること。

なお、口述試験の際に、提出した楽譜の控えを手元に用意すること。また、場合により画面共有することがある。

VI 受験上の注意

- 1 試験に関する諸事項は、全て本学ホームページに(<http://www.okigei.ac.jp/>) 掲示するので、常に注意して閲覧すること。
- 2 **受験生にはパソコン、スマートフォン、タブレット等の通信機器と、インターネット回線に接続できる通信環境を用意し、試験時には個室に1人で対応できる環境を整えることを求める。なお、事前に接続テストを行うので、その際も同じ環境で行うこと。**
- 3 試験に使用できる通信機器は1台とし（緊急時を除く）、試験中は電源に接続するか、事前に充電を行い、試験中に電源が切れることのないようにすること。
- 4 受験者は、指定時刻にオンラインに接続できるよう待機すること。なお、試験当日は、余裕を持って待機すること。
- 5 試験中の録画・録音は禁止する。
- 6 通信機器が接続不可能となった場合は大学(098-882-5080)と連絡をとり、対応を相談すること。
- 7 試験中に不正行為が発覚した場合は、失格とする。また、試験の実施後に不正行為が発覚した場合についても、失格または合格取消とする。
- 8 試験当日は、「本学受験票」を必ず携帯すること。
- 9 指定時刻に遅れた者は、原則として受験を許可しない。ただし、やむを得ない事情（公的事情）により遅刻した場合は、ただちに**大学(098-882-5080)**に申し出ること。
- 10 試験時間中は、監督者の指示に従うこと。
- 11 試験の内容に関する質問には、一切答えない。

VII 出願手続き

2 出願書類等

書 類	様式・書式	記 入 要 領 等
①入学願書・ 受験票・写真票	本学所定の様式 (綴込用紙)	氏名は戸籍に記入されている文字を楷書で正しく記入すること。（以下の書類も同様に） 受験票・写真票には上半身、無帽、正面、出願前3ヶ月以内に撮影した同一写真(縦4cm×横3cm)を貼り付けること。 現住所欄の空白部分にメールアドレスを記入すること。
②受験曲目提出用紙	本学所定の様式 (綴込用紙)	詳細は提出用紙の注記を参照のこと。
③履歴書	本学所定の様式 (綴込用紙)	音楽歴と業績欄には師事した教師、出演した演奏会、受賞歴、発表論文名、作品名等を記す。

書 類	様式・書式	記 入 要 領 等
④入学考査料領収書・領収書原符	本学所定の様式 (綴込用紙)	入学考査料(30,000円)の納入方法は、郵便局の発行する普通為替証書(指定受取人欄、払渡局欄等一切記入しないこと)とする。「領収書・領収書原符」の納入義務者欄に住所・氏名を記入し、普通為替証書と一緒に提出すること。
⑤卒業証明書又は卒業見込証明書 (大学又は最終学校)	様式随意	出身大学等が証明し、厳封したものを提出すること。本学の卒業見込み者・卒業者は不要。
⑥成績証明書	様式随意	出身大学等が証明し、厳封したものを提出すること。本学の卒業見込み者・卒業者は不要。
⑦受験票交付用封筒	本学所定の様式 (綴込封筒)	郵便番号・住所・氏名を明記し、速達料金による374円分の切手を貼ること。
⑧その他の書類 (住民票抄本)	様式随意	県内居住者は入学料の額が軽減されるので、令和2年4月1日以前から県内に住所を有することを証明する本人か配偶者、又は一親等親族の住民票抄本を提出すること。
⑨研究計画書 (音楽学専修受験生のみ)	本学所定の様式 (綴込用紙)	詳細は提出用紙の注記を参照のこと。 (提出された研究計画書は返却しない。)
⑩作曲作品 (作曲専修受験生のみ)	様式随意	提出は3点以内とし、製本をせずに、クリップ等でまとめておくこと。(提出された作品は返却しない。)
⑪受験曲楽譜 (声楽専修受験生のみ)	様式随意	受験曲目の楽譜提出。(カッタのある場合はその箇所を明記する。)(提出された楽譜は返却しない。)
⑫録画物 (舞台芸術専攻及び演奏芸術専攻受験生のみ)		課題の録画物を提出すること。 なお、録画方法等はp.2を参照すること。

上記①～⑧までの書類(⑧は要提出者のみ)及び入学考査料 30,000円(郵便局の発行する普通為替証書)を所定の封筒(綴込)を用い**速達書留の郵送**によって提出すること。

なお、⑨～⑪は**出願期間内**、⑫は**10月16日消印有効**で同提出先に願書等出願書類と**別便で速達書留による郵送**のこと。

*願書等の受理後はいかなる事情があっても書類の変更、考査料の払戻はしない。

令和2年8月
沖縄県立芸術大学